

審 查 評

来年も応募する？



児島 令子

私は今日までコピー書いてきました。私は今日まで O C C 賞応募してきません。そしていま私は思っています。明日からもコピー書いて応募しつづけるだろうと、というワクワク感がないので、このコメントを出して、この賞を書きはじめよう。(若い人わかるかな?)

毎年応募の私も、審査には久しぶりのように参加。いま、O C C 賞ってどんな温度感か?と、現状を知るべく会場に。で感じ以上に新人賞が予想以上にバリエーションで元気だったこと。O C C の未来に安心した。だって新人賞がつまんない賞には未来がないですから。電波、印刷共に、コトバを中心にしつつ、いろんな方法論でアウトプットしてることに感心。

古屋さんの「ものばるく」のストレートでいて超楽しい C M 松岡さんのしつかり人をみつけた中古車やお墓のコピー、山際さんの恐い恐い残浪減キャンペーン、川浪さんのサニエ C M のリアルな家族観などなど、どれもその人でなきゃない「差し替え」のきかない僕、私!という存在を

ところで今年新人賞のみなさん、来年はクラブ賞に応募しますか？しますまね。そしてクラブ賞。井田さんのラジョ C M「連鎖」は秀逸。まるでジョギング本みたい。平易なゴトバのつながり、大きな世界を抽き出している。コビーについていうことだよねと思う。井田さん、来年も O C C 賞に応募しますか？しますまね。全体としては楽しい審査だったけど、新人に比べたら賞部門、応募の温度感がやや低かったかな。あの人のあの仕事が出てないの、と感じたりもした。なとも感じたことない。いつも言っていることだけど、コビーライターにとつて賞は 1 年限りのもの。どんなにいいコピー書いて翌年にはリセットされる。シールド権もない。誰もド駄はかしてくれない。でもつこうなら賞をとるも手に職はつかな。永遠に手に職をつけたつづける仕事だと思ってる。だから大変で面白い。だから毎年 O C C 賞はあるんだ。だから私も O C C 賞を卒業できない。みなさんはどうですか？

いいものは、やっぱり！
でした。



阪急デザインシステムズ
相川千春

だって、負けてはいません。特に
グラフィック作品は、与えられ
た票を絞り込むのに苦心するほどの
力業ぞうでして。西敵の由で
よきぞうと頭を出した山崎さんの
「引越しのチャンスシリーズ」
は、「テレビ、ポスターと」、
軽快でポジティブな視点で好きて
ず。受賞作品以外にも、複数票を
集めた作品はたくさんあります。
私にとって審査は、恐ろしいほど
の刺激と、素晴らしいお手本を見
せてもらえた素晴らしい機会であ
りました。最後になりましたが、受賞された
みなさま、おめでとうございます。
心から、うらやましいです。



大店／生駒達也

コピーライターの仕業だ。

いやあ、W杯は面白かったなあ。まさかあんなことになるとは。日本も頑張ったけど、また4年後だね。

さて、今回のOCC賞に応募する作品は出来てますか。OCCは毎年、すぐ次がやってきますよ。



宝の山での宝探し。
悩みまくって選びました。



メディアアート／岩槻浩世

受賞された皆様、おめでとうござい
ます。数多ある作品の中から
選り抜かれたとあって、さすがに
言葉のパワーを見せつけられまし

家にとり出す屋外広告は、その発想と貼り出すバクトの強さで高い評価を受けた。でも、「言葉」そしてどうかという疑問符が付き、部門賞にとどまっています。残念。結局、審査を終えて、自分もやっぱりコビールの力で広告を面白くしなくては、改めて感じていた。そして、4年前に落選した中村俊介は、その悔しさをバネに、今や日本代表の軸として成長しました。今回どこまでやってくれるか、非常に楽しみです。（6月上旬筆）

\ 5 フック >

A. (骨面)上 5
 B. (NET DOG) 5
 C. (骨面)下 3
 D. (ヤマト) 3 → 5
 E. (和歌山) 4 → 6
 F. (2004) 5
 G. (77-1) 3
 H. (和歌山) 3
 I. (和歌山) 5 → 7

② (10-11)
 ③ (11-12)
 ④ (11-12)
 ⑤ (11-12)
 ⑥ (11-12)
 ⑦ (11-12)
 ⑧ (11-12)
 ⑨ (11-12)
 ⑩ (11-12)
 ⑪ (11-12)
 ⑫ (11-12)
 ⑬ (11-12)
 ⑭ (11-12)
 ⑮ (11-12)
 ⑯ (11-12)
 ⑰ (11-12)
 ⑱ (11-12)
 ⑲ (11-12)
 ⑳ (11-12)
 ㉑ (11-12)
 ㉒ (11-12)
 ㉓ (11-12)
 ㉔ (11-12)
 ㉕ (11-12)
 ㉖ (11-12)
 ㉗ (11-12)
 ㉘ (11-12)
 ㉙ (11-12)
 ㉚ (11-12)
 ㉛ (11-12)
 ㉜ (11-12)
 ㉝ (11-12)
 ㉞ (11-12)
 ㉟ (11-12)
 ㊱ (11-12)
 ㊲ (11-12)
 ㊳ (11-12)
 ㊴ (11-12)
 ㊵ (11-12)
 ㊶ (11-12)
 ㊷ (11-12)
 ㊸ (11-12)
 ㊹ (11-12)
 ㊺ (11-12)

コピーは元気でした



中野直樹広告事務所
納健太郎

た。私の審査基準は、生活者としてのどのコピーに心を揺り動かされた次の行動に移るか。クラブ賞の井田さんの「連鎖」は共感できる価値をユニークに表現できている。何気なく聞いていても大切なことをちゃんとに残す、というコピーのパワーを感じました。高田さんの「ママと一緒に泣いた日」は、がらんばんでええ、泣きたい時は、泣いたらええねん、という優しいメッセージが伝わってきた。好感をもちました。佐藤さんの「スカート」は、誰もがそのように想像するシチュエーションを思いやうまく表現しているなあと思えました。湯浅さんの「家は、途中も見てほしい」は、媒体とコピーがびつたりマッチしていて、きちんと伝わる。良い家だから、彼ら（家の声なき声を確認してほしい、という願いが伝わってきた）。兄島さんの「電気代を、払い過ぎないためにも、ご検討ください」は、ここでもスバツと関心事に切り込まれては、購入の際、選択肢に入れないと、貼紙風に作られているところにマジでスゴミを感じました。大洋書店だけでは魔が差すなんてことは、村山さんの「ペビロロテンション」が特に心に残っています。赤ちゃん目線で語った内容はユニークな、そんなことを考えているかも！な感じ。子役のロテンション具合も、ちょっといいゆるさでよかったです。今回選ばれなかった作品の中には素晴らしいものは沢山あつて、まさに宝の山です。感動は感じてないで、私がんばらなくていいです。スタッフの皆様、お疲れ様でしたあ！

「ようやるわ」の思が、嫉妬ともにもふつふつ湧いてくる。そんな仕事にたくつく出てきました。受賞されたみなさん、おめでとうございませう。今年は新人の波がどうだったと来まして、松坂世代みたいな感じでしょうか。西村さんのテレビ「J・X・KUROKI」に引越越し屋さんの広告で、こう来るか!? その割り切り方が新鮮で、思わす一票、村山さんのラジオ「ペーローテーション」で。テンション低い系のラジオを聴いてこう多かったんですが、群を抜いていました。言葉遊びの差のような気がしますが、セリフ一言一言が、脇をこちょこちょうるに届きました。青木さんの雑誌「セデスキュア」こういう女性の本音みたいなコピー、う、女性ライターに限るよな。男が書くトエセ実感ばかりなるもの。など、勝手に評価していたら、青木さん、勝手に仕えました。まいりました。部門賞では高田さんの「ママも一緒に泣いた日」ですが、よくこんなママの実感すくえます。湯浅さんの「家は、途中でも見てほしい。文字だけで見るとなんてこない(失礼)一言も、実際の建設現場で、しかも例の偽装問題を背景にして、ものすごく効く言葉になる。コピーの企みがまよまた成功してるな」と感心。

審査会場に並ぶのってみなさんの自撮りばかりです。普通にいい広告なんだとゴロゴロあると、もうひつと突き抜けた「何か」が必要なんだと思ふ。その何かって何? わからなから、みんな永遠にウンウンなって書くんですよね。受賞作はどれも、そんなうなりながら、正にカタチになったものだと思います。どんなに時代が変わっても、この世界やちやんちやんと悩んだもん勝ち、ちやんとおもしろがったもん勝ちやなあとしみじみ、投げたならアカンですね。古いけど、生まれれて初めての審査員としての一日。いい

コピーの気をどつきり浴びて
気持ちよかったです。



博報堂／小池光洋

ラブ賞

クラブ賞に決まった松下のラオCM「連鎖篇」は、「本当にすごい言葉が、かくも神々しく響くCMは稀有です。最後までクラッシュを脱ったグラブバックの「家途中を見て欲しい」という作品極めて「今」だと思えます。ひとつのジャーナリストとしての者に深く語りかけてきていますね、でもで、良い悪だけじゃなくて、個人的な好みでもあるじゃないですか、かく、好きじゃないで、選ばなかったけど僕的にラブラブ光線作品を、「ラブ賞」として表彰します。「ク」が賞として表彰ん。って、おもしろないか、めげずに行きます。

「ラブ賞ラブリ部門」占いのリクルーティング広告「昼休み行列のできるわたし」といふコピー。かわいいです。

次は「ラブ賞脱力部門」サラウンドと血うだるかに脱ラジオM。あまりのくだらなさに、脱したくなったら思い出すようにしています。

